

新たな施設における国立公文書館に対する理解促進の取組（案）

	対象	場所	コンテンツ（例）
展示	来館者全般	展示室（常設展示）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公文書管理や国立公文書館の関連年表、国立公文書館の業務等に関する映像 ・ 業務に関連する設備・機材等（例：書架、修復用の道具や和紙、変遷してきた記録媒体） ・ 所蔵コレクションとその由来の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 公文書管理の意義や館の役割、業務への理解の深化 ・ 形態、素材等が特徴的な公文書の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 「こんなものも公文書」という意外性 ・ 施設とその周辺ジオラマ <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 館の役割と「三権の集まる場所」の立地の意義
見学・体験	希望者（より深く国立公文書館を知りたい人）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学ガイダンス室 ・ 修復等体験室 ・ 各業務施設 <ul style="list-style-type: none"> 受入施設 書庫 修復室 複製物作成室 <p>※基本的には室外から見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前ガイダンス ・ 修復・保存・利用等に関する業務体験 ・ 施設、業務の見学

参考事例：九州国立博物館のバックヤードツアー
 日曜日に先着順（定員30名）のバックヤードツアー（所要50分程度、無料）を受け入れている。収蔵庫の壁体の一部に閉口部を設け、通路から内部を覗き見することができるようにしている。



見学通路から収蔵庫内を見られる閉口部